③町民参加による施設づくり

施設の設計段階において、さまざまな年代・職種の町民の方々を対象として、町民ワークショップを開催しました。町民の方々に伐採現場を体験してもらい、実際に町産材に触れることにより、幅広い年代層が町産スギ材の特性や活用方法について理解を深めるとともに、森林の持つ多面的機能（山地災害防止機能や水源涵養機能など）の重要性についても再認識するきっかけとなりました。

また、まちづくり座談会などでも説明を行い、広く意見を聴取し、施設設計に反映させました。

港区との協定による白鷹町産材の更なる利用拡大

10月28日、佐藤町長はオンラインで「みなと森と水サミット」に参加。東京都港区と「間伐材を始めとした国産材の活用促進に関する協定」を締結しました。これにより、町産木材を町外に向けてＰＲすることが可能となり、更なる利用促進に向け、供給先の拡大を図っていきます。

また、締結自治体で構成する「みなと森と水ネットワーク会議」は、約80もの自治体が加盟しており、他の市町村と情報交換をすることで、好事例などの情報収集をすることが可能となりました。

新規加入団体からのあいさつを述べる佐藤町長。町産木材利用の促進に向け、意欲を示しました。

10月30日（金）木材利用優良施設コンクール表彰式

東京都江東区にある木材会館で、木材利用優良施設コンクールの表彰式が行われました。表彰式には佐藤町長、設計業者である株式会社環境デザイン研究所仙田順子代表取締役、施工業者である那須建設株式会社那須正代表取締役社長、株式会社鈴木工務店鈴木洋代表取締役が出席され、林野庁の本郷浩二長官より、内閣総理大臣賞が贈られました。

左から仙田代表取締役、佐藤町長、本郷長官、那須代表取締役社長

本郷長官より佐藤町長へ賞状が手渡されました

まちづくり複合施設の特徴

①地域活性・地域林業振興
木材資源循環の契機となる施設

【図】出典：林野庁ホームページより

まちづくり複合施設は中央公民館･図書館･役場庁舎が一体となった施設です。本施設の大きな特徴として、構造材等に約 75％もの町産スギ材を使用し、伐採から製材、乾燥、施工までのすべての工程に一貫して町内企業が携わり、地域内で森林資源を持続的に循環させる仕組みづくりの構築に向けた特色ある取組みを行ってきたことが挙げられます。

特に、地元の製材所や住宅建設メーカー６社が新会社を設立し整備した「おきたま木材乾燥センター株式会社」は、これまで町内に乾燥施設が存在しなかったことから、安定した町産材の供給や地域内で森林資源を持続的に循環させる仕組みづくりの構築に大きく寄与しました。

また、町産材の活用を促進させることを目的として、平成 26 年度に川上（山主、森林組合等）、川中（製材業、加工業等）、川下（建設業、建築士、燃料業等）、有識者（大学教授、森林管理署、県庁森林担当部局）のメンバーで構成される「森林・林業再生協議会」が設立されました。木材価格の低迷や森林所有者の高齢化等で森林の境界が不明瞭であること、地元に大口需要先がないため木材の出口がないことなど、本町の森林・林業に関する課題をひとつひとつ洗い出し、議論していきました。森林・林業再生協議会の設立により、供給から製材までの地域内の連携体制整備が強化され、さらには本町の森林・林業に対する町民意識の醸成が図られました。

川　上 → 川　中 → 川　下

【伐採・植林・育林】

【製材・乾燥】
おきたま木材乾燥センター

【木質チップの製造】
おきたまチップセンター

【町産材の活用】
公共建築物や木質バイオマスボイラーへ利用

②白鷹町産材を最大限活用

町産材は冬季間の降雪による根曲がりのため、調達可能な寸法が限られています。しかしながら、長年、豪雪地帯の厳しい環境に耐えてきた木材は、強度・剛性にはまったく問題ないどころか優位性があることが確認されています。この町産材を最大限有効活用するため、調達可能な材の寸法から逆算し、大部分に平角材の合わせ梁を取り入れるという工夫を凝らしています。

また、町産材を余すことなく有効に活用するため、本施設に木質バイオマスボイラーを導入し、冬期間の熱源として利用しています。

中央公民館大会議室。アーチ形の天井が特徴的で、
木のぬくもりがより一層感じられる構造。